

特別支援教室「くわのき」について



特別支援教室は、市立小中学校全校に設置されています。通常学級に在籍しながら、個々の特性に応じた支援が受けられるよう、巡回指導教員が指導を行っています。

指導内容は主に『自立活動』という領域に関する指導です。その目的は、特性によって児童が抱える学習上または生活上の困難を明確にし、その困難さを、児童が主体的に改善または克服しようとする取組を促すことです。

指導形態を組み合わせた指導の工夫

小集団指導

6人前後の異学年グループで学習します。

人数や環境、学習の難易度などに配慮した活動に取り組むことを通して、集団での望ましい行動を学びます。ここでの成功体験を積み重ねることで、在籍学級での実践に活かすことをねらっています。上記の小集団としてのめあてのほかに、個別にめあてを設定し、グループで同じ活動に取り組んでいます。

<個別のめあての例として…>

- ・「ペアやグループで相談して、やり方を決める」など、協力して活動します。
- ・「活動のきまりやルールを守る」「勝ち負けを受け入れる」など、このような簡単には達成できない課題に対して、粘り強く取り組みます。

個別指導

児童と教員が、1対1、または2対1で学習します。

児童の興味や関心・注意の持続時間などに合わせて柔軟に学習活動を構成します。児童一人一人の興味・関心の高い題材や得意なことを生かした学習方法を学んだり、「集団の中で求められている適切な言動がとれる技能(ソーシャルスキル)」を身に付けたりします。

<課題の例として…>

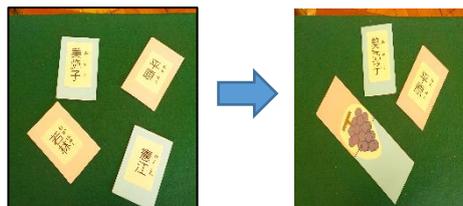
- ・「こんなとき、どうしたらいいの？」ソーシャルスキルトレーニング(SST)を通して、状況に応じた望ましい言動について考えます。
- ・ワークシートなどを使った聞きとりの練習や、忘れてしまわないように、簡単なメモの取り方等を学びます。

児童の実態に応じて、週に1～2時間程度の指導を行っています。

小集団指導の活動例

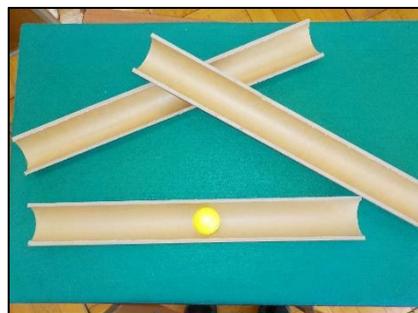
☆「名前覚えゲーム」

小集団グループの顔合わせのときに、行うことが多いです。苗字と名前を色分けしたカードを使います。裏面にはイラストをつけて、その組み合わせが正しいのか気軽に確認できるようにしています。



☆「ボールつなぎ」

紙管を縦に割った筒にピンポン玉を転がします。グループ全員で協力して、ボールを落とさずにゴールまでつなぐことがねらいです。筒をつなげるコース取りなど、相談しながら取り組みます。



☆「くわのきモルック」

「モルック」は、北欧発祥のスポーツです。それを室内で安全に、かつ、短時間でできるようにルールを工夫して行っています。全員でゴールとなる20点を目指して取り組んだり、2チームでどちらが先に20点を取るか対戦したりします。どこをねらうか相談をしながら協力して活動します。



きょうりよく
協力して
ゲームを
たの
楽しもう！



☆「あたしはだれでしょう？～3ヒントクイズ～」

市販の「ナンジャモンジャ」ゲームのカードを使います。ほかの友達が当てられるように3つのヒントを考えます。色や形、表情などイラストをよく見て、ヒントを考えました。当てる方もどの部分を差しているのか推理し、正解することを楽しめます。



★例題★

- ①ぼくは、かっこいいです
- ②心には、ハートがあふれています
- ③サングラスもキマっているぜ